

夕刊

室蘭民報

MUROMIN

9月2日 水曜日

2015年(平成27年)

喜び悲しみ分かち合う

被災地で傾聴ボランティア

室蘭・海星学院高 生徒6人が報告

東日本大震災被災地の岩手県釜石市で傾聴ボランティアなどに取り組んだ、室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、236人)の生徒6人が1日、同校ホールで全校生徒に活動報告した。現地での体験を通じ「今を大切に生きる」「傾聴」を分かち合い、「率先者たれ」



東日本大震災被災地の岩手県釜石市で傾聴ボランティアなどに取り組んだ海星学院高校の生徒6人による活動報告会

など、それぞれが痛感したこと、先輩や後輩たちにも知ってもらいたいことを伝えていた。

校内の作文選考で選ばれた1年生の伊藤千澁さん、下田蒼さん、中村仁南さん、松井玲菜さん、2年生の大谷優生さん、下司知実さんの6人が現地を訪問。期間は7月7～11日。カリタスジャパン釜石ベース(釜石カトリック教会内)を拠点に、仮設住宅でのカフェサービスを通して、傾聴ボランティアなどを行った。

被災者が集つ「お茶会」でのエピソードを紹介した下田さん。みんな披露した歌や踊りを喜んでくれた人がいた一方、自分たちの姿を震災の犠牲になつた子どもに重ね合わせ、涙ぐんだ人がいたと知り、「傷付けてしまったのではないか」と思い悩んだという。その胸の苦しみを6人のミーティングで打ち明けたところ「みんなが少しずつ負担を分かち合いながら受け止めてくれて、心が軽くなつていった」。その後の傾聴ボランティアでは、おばあさんから笑顔と感謝の言葉をもらった。「傾聴こそ分かち合い。特別なスキルはいらず、必要なのは受

け止める心だけ。身近な人の話に耳を傾け、その人の喜びや悲しみを分かち合つてほしい」と呼び掛けた。

報告を終えた6人は「うなずきながら聞いてくれてうれしかった」と話していた。今後は校内に募金箱を設置し、釜石市の仮設住宅で暮らす人々にクリスマスツッキーを贈る計画だ。登別市西陵中学校や室蘭東ロータリークラブの例会の席上でも活動を報告する予定。(成田真梨子)